



## 【 アンスリウム 】

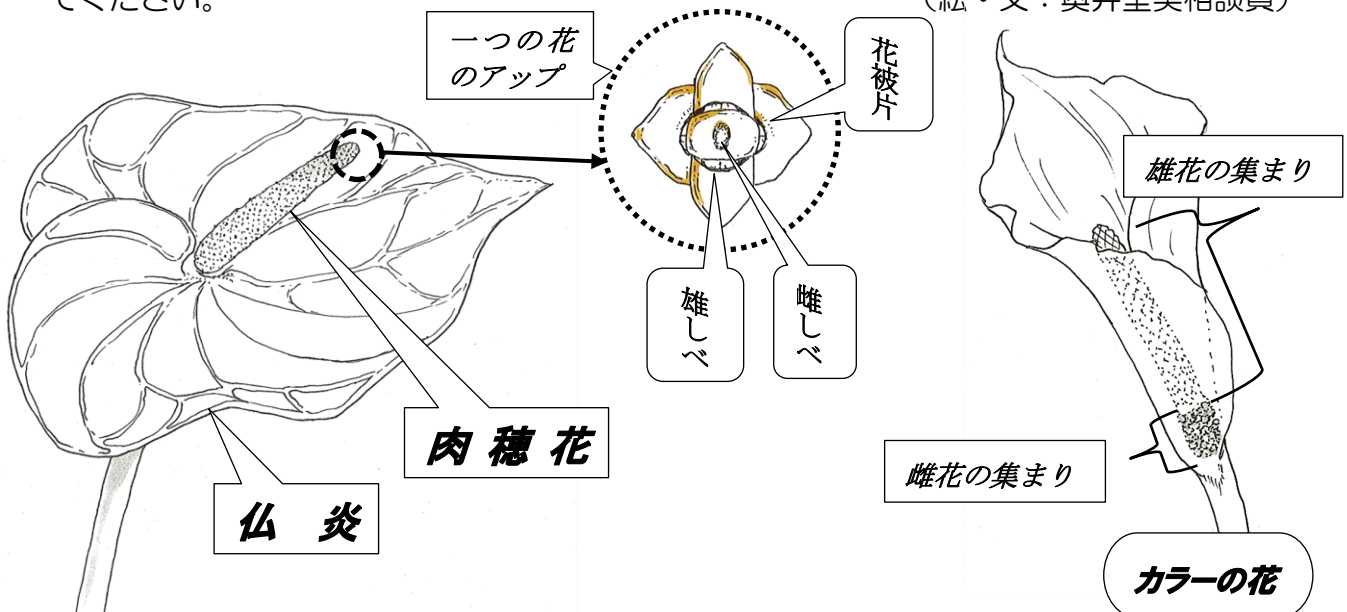
光沢のある葉と独特の花の形が目を引くアンスリウムは、室内で育てることができるトロピカルフラワーです。近年は花色が増えて、赤をはじめ白、紫、オレンジ、赤茶などもあります。原産地は温暖で湿潤な沼地や湿地で、多肉質な根で樹に着生するものが多いようです。

棒のように見える花は花軸に密集した小さな花のかたまりで、ひとつの花は3mmほどで花被片4、雄しべ4、雌しべ1から出来ています。花被片（ガクと花弁がよく似ているものの時に使う）は肉厚で小さな雄しべがその内側につき、中央に雌しべの先が出ています。この花のかたまりは肉穂花序（にくすいかじょ）と呼ばれます。肉穂花序を取り囲む色鮮やかな花弁のように見える部分は、葉が変化したもので仏炎苞（ぶつえんほう）と呼んでいます。肉穂花序は先に雌しべが咲き、やがて花粉が一つ一つの花から出てきます。仏炎苞も少しずつ色が薄くなってきますが、1か月ほど楽しむことができます。

サトイモ科の植物はいろいろあり、肉穂花序の花の付き方もバラエティーに富んでいます。株で雌雄が分かれているもの（コンニャク）、一つの肉穂花序に雄花と雌花が別につくもの（カラー）、付属体（ふぞくたい）という花の付かない部分があるもの（マムシグサ）などがあります。アンスリウムは両性の花の集まりです。

7月はアンスリウムの植え替え時期になります。根が多肉質なので花の土などではなく水はけを重視し、ヤシ殻 1：赤玉土 5：鹿沼土 2：軽石 2などを混ぜて微塵をのぞいて使います。古い用土はきれいに取り除き、太い根を折らないように丁寧に植えます。日本では一年中遮光が必要で、レースのカーテン越しぐらいが理想です。水は土の表面が乾いたらしっかり与えます。5～10月の生育期には、液体肥料を与えますが薄いものをたっぷりあげるのがコツです。花は肉穂花序や仏炎苞の色が緑になったら切ります。夏、クーラーの風が当たるようなときは霧吹きで湿度を確保しましょう。冬は8℃以上の場所に置き、水やりを少なくします。花が咲いていなくてもツヤのある葉が観葉植物のように楽しめるアンスリウム、チャレンジしてみてください。

（絵・文：奥井里美相談員）



## 7月の花とみどりの講習会

### 【食虫植物を楽しもう】

日時：7月15日(土) 10時から12時まで  
場所：花とみどりの相談所  
講師：同所相談員 植村 修二  
定員：小学生3年生以上 24人  
費用：600円  
申込：7月8日(土) 9時15分から 先着順 電話可



セファロタス

ウツボカズラ



サラセニア



ムシトリスミレ

### 【風鈴を使ったつりしのぶ作り】

日時：7月29日(土) 10時から12時まで  
場所：花とみどりの相談所  
講師：市原 誠さん(つりしのぶ園代表)  
定員：24人  
費用：2,800円  
申込：7月22日(土) 9時15分から 先着順 電話可



### 花とみどりの相談

花とみどりに関する相談を受け付けています。お気軽にどうぞ！

相談時間は、**火曜日・木曜日**の13時から16時30分までです。

電話による相談も行っています。

7月の休所日 毎週の日曜・月曜日と18日(火)です。

\*\*\* 豊中市 花とみどりの相談所 \*\*\*

〒561-0804 豊中市曽根南町1丁目4番1号(豊島公園内) 阪急宝塚線 曽根駅南 徒歩5分

TEL 06-6863-8439 FAX 06-6863-3638